

新しい観光地づくりに槌音響く

今冬開場めざして

急ピッチで工事すすむ霧降高原スキー場

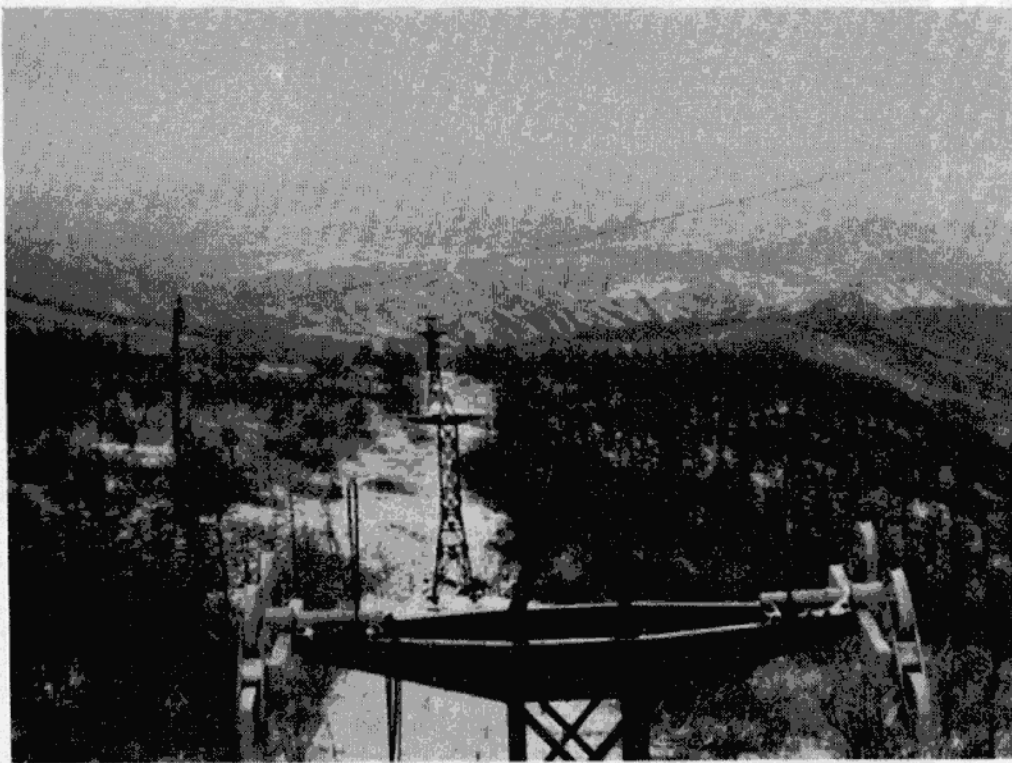
霧降高原開発事業の一環として、キスゲ平を中心に市営のスキー場を作り、ことしの冬には開場できるよう計画をすすめていましたが、いよいよスキー場整備に着手し、新しい観光地づくりに、今、槌音が高く響いています。

一般向きのスロープで

八百と九百メートルの二コース

スキー場になる場所は、赤薙山のふもと、標高千二百〇千三百メートルの高原地帯で、いわゆるキスゲ平を中心とした十七ヘクタールの広大な土地を利用してスキー場をつくるものです。このスキー場には三基のリフトを建設しますが、一基は霧降高原道路の終点からスキー場まで延長四百五十五メートルのリフトを設け、そこから上下二基（第二リフト三百三十五メートル、第三リフト三百八十八メートル）のリフトを設けます。すでに鉄柱などの建設は終わっており、チエアを取り付けていますので、試運転もま近に行なう予定です。また、スキーコースの整備もほぼ終わっていますので降雪のころには開場する予定です。

三つのリフトが交わる所には中央駅舎として延百三十七坪のスキーロッヂを建設しています。このスキーロッヂは、鉄筋コンクリートブロック造りで、屋根はゲルカ寒冷地工法をとり入れ



建設したスキーリフト

ています。なお、霧降高原道路の終点、つまりスキーリフトの起点には、常時大型バスが約三十台駐車できる駐車場を建設する予定です。ことしは開設したばかりですので、施設など内容的には不備な点が多いと思いますが、市民の皆さんのレクリエーションの場として、ぜひ一度おいでください。スキー場までの所要時間は、霧降大橋からリフトの起点までバスで約三十分、そこから第一リフト（一時間に約五百人運べます）で約六分、待ち時間を入れれば、一時間でスキー場に行け、スキーを楽しむことができます。

来晃客五百二十八万人

三十九年観光統計まとまる

観光課では、このほど昨年一年間の、あらゆる観光に関する数字をまとめて発表しました。そのおもなものを拾ってお知らせしましょう。年間の観光客総数は、五百三十八万六千四百四十七人で、昭和三十八年に比べて二十六万四千人の増となっています。交通機関の利用別では、国鉄一四％、東武一四％、定期バス一％、自家用または観光バス利用が六％となつています。

宿泊者総数は百二十三万九千四百八十六人で、年間観光客総数の二三％が宿泊しています。宿泊の内訳は、日光地区三三％、中宮祠二八％、丸山・菫浦地区五％、光徳七％、湯元が二七％となつています。宿泊者数を十年前の昭和二十九年と比べてみ

ますと、昭和二十九年の三三％に対して、昭和三十九年の二三％と一〇％減少しています。しかし、宿泊者数は約五十万人もふえているのです。これは、観光客数の増に比例して宿泊者数の伸びが少ないともいえるわけです。宿泊者の内訳は、一般三七％、一般団体一〇％、学生団体五一％、外国人二％となつています。

観光客流動の特徴としては、中宮祠から奥へ行った者が総数の七八％、二社一寺拝観者が四二％、霧降高原へ行った者が四％で、そのほか、目的別ではスキーヤーが二％、スケーターが一％、キャンパーが一％となつています。